# それ、のなまえ

紅夜　真斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
それ、のなまえ

【Ｎコード】
Ｎ８７９０Ｂ

【作者名】
紅夜　真斗

【あらすじ】
生まれて初めて出会った“それ”は、まだ名前も知らなかった。

それに出会ったのは、今日がはじめて。
それは大きくて僕を圧倒していた。

けれどそれは力を入れるのが苦手らしい。
ゆるゆる、ふるふる揺れながら崩れ落ちて行くだけだった。
しかーーーしっ！！
そこは颯爽と手を差し伸べる！

たしっ……と、手を伸ばしそれは全身ぷゆんっと揺れて収まった。

近づいて初めて気が付く甘いにおい。
気を引き締めなくてはいけない一瞬なのに、それを弛緩させる甘美なるにおい。
次の瞬間、それは僕の手の中から揺れながら堕ちた。
まるで誘うように体をひらいて……
鼻先にかかる甘いにおいが、僕の思考を奪い狂わせてイク。

そうか、わかったぞ！　これはきっと罠だ！
僕を陥れるための罠！　その証拠にそれはずっと甘いにおいで僕をっ……

僕を……あまい……いい、におい。

ふらふらと僕はそれのにおいを確かめるように、そして引き寄せられていく。

頭のどこかで“これは罠だ、罠だから気をつけて！”と叫んでいるんだけど、甘いにおいはとっても強くて。

おずおずとだけど、味わってみたくなった。舌先だけでちょんっとそれを舐めてみた。

～～～～っ！！

こ、これはっ！！

誘惑に負けた僕は思わず目をぎゅっと閉じて、口の中に残る甘いにおいを堪能する。

ぎゅっと、ぎゅっと強く目を閉じて他の何も視界に入らないように！

そうしたら今度は強く目を閉じすぎたせいで、頭がくらりと来てその場にへたり込んでしまった。

それとほぼ同時に空から笑い声が聞こえた。

尻餅をついたところを見られて、笑う声。

だけど、甘いにおいは口の中とそれからずっと僕の欲望を刺激し続けて、笑われた事なんかちっとも気にならなかった。

僕はもう一度目をひらいて、それをみた。

変わらずそれは床に体を広げてふるふると揺れていた。僕が欲望に負けて舐めてしまったことに怒ってはないようだ。

それ、は僕ノ？

僕ノモノ？　ボクノモノダ！

それは僕のだ！　誰にも渡してやるもんか！

僕が決めたとき空から黒い影。僕のモノを奪いに来た！

渡してなんかやるもんか！！

急いでそれを両手で拾いあげると、黒い影が止まった。

ふふんっ、僕のモノって云うことを認めたみたいだな。

で、いつまでたってもそれ、というのは可哀想だ。とっても甘いにおいに何かいい名前をつけてあげるべきだ。

もう一度それにぺろりと舌を伸ばした。変わらず甘いにおいとふるっと揺れた。

気が付いたときには僕はそれを抱えてはおらず、両手に残っていた残滓を必死に舐めていた。

「やっぱり、どのハムにとってもプリンは未知の味、なおかつ美味い認識か」

感慨深い笑い声と共に僕はそれの名前を知った。

**（後書き）**

本日のハムの出来事でした。（脚色あり）
美味いものや初めてのものを食べると、目を細めるのは動物の本能でしょうか！

まあ、ご老体ハムにはあげ過ぎ注意ですが。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8790b/

それ、のなまえ

2010年10月11日16時41分発行